

日本比較文化学会

## JACC 比較文化会報

本部事務局：〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149番地 宮城教育大学  
佐藤静研究室

会長室：〒379-0124 群馬県安中市鷺宮3413-3

NPO法人国際比較文化研究所内 太田敬雄 [mtharunac@xp.wind.jp](mailto:mtharunac@xp.wind.jp)

会報編集室：〒370-0068 群馬県高崎市昭和町53 新島学園短期大学内

高山有紀研究室 [y-takaya@mail.neesima.ac.jp](mailto:y-takaya@mail.neesima.ac.jp)

学会HP：<http://www.hikakubunka.jp/>

### 《第30回全国大会》

「そうだ！京都へ、そして日本比較文化学会へ行こう！！」

日本比較文化学会 副会長・関西支部長 山内 信幸  
同 全国大会準備委員長 丸橋 良雄

第30回日本比較文化学会全国大会が6月14日（土）に関西支部担当で京都大学にて開催される運びとなりました。

京都には日本有数の国際観光都市でもあり、多くの会員の皆様方は既に何度も京都を訪れておられることと思います。ただ、京都大学に足を運ばれた方はそれほど多くはないのではないのでしょうか。京都大学は、独立行政法人化以降、教学・研究面で独自の「改革」を推進しているなかで、キャンパス内のイタリアンレストランが予約のとれないお店となり、構内で販売されている京大グッズが爆発的な売れ行きの伸びを見せ、さらには、人気TVドラマの「ガリレオ」でロケ地に選ばれたことで一般見学者が激増したりと、およそ従来のお堅いイメージとはかけ離れた、新しい「京都大学」がそこにはあります。

「学生の街 京都」と称されるだけあって、学生のことを愛情をもって「学生さん」と呼ぶ文化は、京都の大学・短期大学に勤める教職員は言うまでもなく、一般市民の間にも浸透しています。また、いわゆるナイトライフで、「一見さん、お断り」と言われる文化も健在で、その排他性が高級店への敷居を高くしている一方で、常連客のなんともいえない優越感をくすぐる商法として長い伝統を誇っています。

「比較文化学」は、従来型のタコツボ的な「専門」に縛られることなく、自由横断的に、そしてときには、しなやかにかつ大胆に、従来の視点では捉えきれなかった事象を扱うことのできる、新しい学問領域です。第1回全国大会から数えて30回目を迎えることになり、人間で言えば、既に「壮年」の域に達していますが、最近になってようやく市民権を得て、比較文化学的な手法による学術研究の必要性が認識されるようになってきました。この「新しい」比較文化学に集う研究者が「伝統の街 京都」で一堂に会することはたいへん意義深いことと信じています。

梅雨空に晴れ間が広がることを願いつつ、全国大会準備委員一同、皆様方のご来洛を心待ちにしております。気をつけてお出ましてください。

## 日本比較文化学会第30回全国大会日程ならびに研究発表募集のお知らせ

日本比較文化学会 副会長・関西支部長 山内 信幸  
同 全国大会準備委員長 丸橋 良雄

すでにお知らせいたしましたように、今年の全国大会は、関西支部がお世話させていただき、6月14日（土）に京都大学で開催されることになりました。つきましては、当日の日程スケジュールと研究発表募集要項（再録）をお知らせいたします。研究発表をご希望の方は、締切日が迫っておりますが、至急ご連絡いただきますようお願い申し上げます。

### <スケジュール>

日時：2008年6月14日（土）

会場：京都大学（吉田キャンパス吉田南1号館）

- 8：45～9：25 編集委員会
- 9：30～10：30 理事会
- 10：40～12：00 シンポジウム
- 12：00～12：55 昼休み
- 13：00～13：50 総会（臨時理事会を含む）
- 14：00～15：00 講演
- 15：10～17：40 研究発表
- 18：00～20：00 懇親会

### <研究発表募集要項（再録）>

書式：

WORDを40字×36行に設定して、中央1行目にタイトル、1行あけて、氏名、そのあと（ ）内に所属を書く。1行あけて、A4サイズ1枚におさまるようにレジユメを作成してください。（書式については、準備委員会のほうで簡単な編集をさせていただくことをご了承ください。）

送付先：

A4サイズ1枚に作成したレジユメを添付ファイルにして、北林利治先生（全国大会準備副委員長・渉外担当 VZV00407@nifty.com）まで

締切：

2008年3月末日（事前にレジユメ集を作成しますので、締切を厳守願います。）

ご不明な点がございましたら、渉外担当の北林先生までなんなりとお問い合わせ下さい。準備委員一同、できる限りの準備をして会員の皆様方をお迎えしたいと思います。京都でお会いする日を楽しみにしております。

## 《事務局より》

### ○会長の任期と選任について

現会長の任期は平成20年6月の全国大会総会日までです。会則第8条により、理事会の選挙で会長候補者を選出し、総会で選任することになります。会長候補者は、自薦・推薦を問わず、総会の1ヶ月前までに事務局に対して書面で届け出てください。なお、理事でない者は会長となることはできません。

### ○会費納入のお願い

会費の納入につきましてご協力いただき感謝いたします。3年を超えて未納の場合には会員資格を失うこととなりますのでご注意ください。なお、年度替りや納入促進の取組み等の関係で全会員に振込み用紙が送られる場合があります。既に会費を納めている場合などにも行き違いになることがあります。ご容赦ください。自分が納入したかどうか不確実な場合には事務局までお問い合わせください。

会費納入の郵便振替口座番号：02570-6-8921 加入者名：日本比較文化学会

振込みの際には何年度分の会費かを明記してください。

## 《支部報告》

### 東北支部

2007年10月6日、駿河台大学お茶ノ水校舎において、関東支部と合同研究発表会を開催しました。東北支部からは、河内健志氏（東北大学大学院）、高橋栄作氏（弘前大学非常勤講師、高崎経済大学非常勤講師）が研究発表をしました。（タイトル等詳細は関東支部報告参照）

遅くなりましたが、東北支部会費の郵便振替口座を開設しました。今年度分の会費（千円）をお願いします。

口座番号 02210-3-69765 番

口座名称 日本比較文化学会東北支部（弘前郵便局）

住所 036-8577 弘前市 大字稔町13-1

弘前学院大学 佐藤和博研究室

支部長 佐藤和博

### 関東支部

10月に東北支部との合同研究発表会、12月には第15回研究発表会が行われました。また、今月23日には第16回の研究発表会も予定されております。研究発表者は以下のとおりです。

#### \*東北・関東支部合同研究発表会（関東支部第14回研究発表会）

2007年10月6日（土）、於駿河台大学御茶ノ水校舎

#### 1、B. バヤルツェツェク（筑波大学大学院）

「日本人とモンゴル人の色彩感覚—文学作品の中の色—」

#### 2、水島孝司（南九州短期大学）

「短大英文法授業における50語英作文の導入効果と課題」

#### 3、河内健志（東北大学大学院）

「英語における非対格他動詞の補部の統語範疇について」

#### 4、高橋栄作（弘前大学〈非〉、高崎経済大学〈非〉）

「CALLを用いてEFL学習者の動機を高める可能性」

#### 5、鈴木宣行（創価大学）

「開発援助と『人間』研究—セネガルにおけるNGO活動から見えてくるもの—」

### \*第15回研究発表会

2007年12月15日(土)、於高崎市南公民館

- 1、藤咲多恵子(文教大学〈非〉)、水島孝司(南九州短期大学)  
「大学生の英語コミュニケーション活動経験に関する研究—実態調査の結果報告を中心に—」
- 2、平珠生(群馬県立女子大学大学院)  
「ヨブ記との比較—Truman Capoteの“The Headless Hawk”—」
- 3、水島孝司(南九州短期大学)  
「トレーニング型大学TOEIC授業の教育効果の検証—」
- 4、林英一(慶應義塾大学大学院)  
「幻の日本人部隊—脱植民地化期ジャワにおける残留日本兵の役割—」
- 5、花澤聖子(神田外語大学)  
「日中文化摩擦の現状と研究方法への視座」

### \*第16回研究発表会

2008年3月23日(日)、於国立オリンピック記念青少年総合センター

- 1、三井真紀(九州ルーテル学院大学)  
「多文化社会における保育者養成 - FINLANDの事例から -」
- 2、藤咲多恵子(文教大学〈非〉)、水島孝司(南九州短期大学)  
「大学生の英語学習開始時期及び取得資格に関する研究  
—実態調査の結果報告を中心に—」
- 3、野口周一(湘北短期大学)「社会教育者・永杉喜輔の生涯」

講演

太田敬雄会長「多文化交流の基本理念と実際」

支部長 野口周一

### 関西支部

関西支部では今年度も活発な支部活動を行っています。12月は中四国、九州支部とともに合同例会を開き、約50名の会員が参加しました。合同例会後の懇親会にも約35名の参加者があり、鍋料理を囲んで日頃あまり接することのない各支部の会員同士の交流を深めました。10月例会、12月例会のプログラムは以下の通りです。

#### 10月例会

日時：2007年10月20日 14:30~17:00

場所：同志社大学今出川キャンパス至誠館23番教室

研究発表

- 1 国友万裕(同志社大学嘱託講師)  
「世紀末のハリウッド映画とメイル・ボディ(男性裸体)の表象」
- 2 岩田聖子(追手門学院大学非常勤講師)  
「情意的要素と言語学習—〈動機付け(motivation)〉〈言語不安(anxiety)〉〈重要な他者(significant others)〉の考察とビジネス英語授業での実践—」

講演

林久美子先生(京都橘大学文学部日本語日本文学科教授)

「渡島する人、渡来する物—日本近世演劇における異国—」

## 12月関西支部総会及び関西・中四国・九州支部合同例会

日時：2008年12月15日(土) 12:40 ~ 17:00

場所：同志社大学今出川キャンパス至誠館23、24番教室

### I 日本比較文化学会関西支部総会 (12:40~12:50 至誠館23番教室)

- 1 2006-2007年度決算の件
- 2 2007-2008年度予算の件
- 3 役員選出の件
- 4 その他

### II 研究発表 (13:00~16:10)

#### 第1室 (至誠館23番教室)

司会：崎村弘文 (久留米大学文学部国際文化学科教授)

- 1 占部匡美 (久留米大学非常勤講師)  
「日本語教育史における入門期教科書の基礎語彙研究」
- 2 今田桂子 (福岡国際大学国際コミュニケーション学部コミュニケーション学科講師)  
「留学生への英語授業の必要性」

司会：長谷部陽一郎 (同志社大学言語文化教育研究センター専任講師)

- 3 山本美津子 (立命館大学非常勤講師)  
「英語力と国語力の相互関係への一考察—学生の言語コミュニケーション能力(発信能力)への意識調査をもとに—」
- 4 兼本円 (琉球大学法文学部言語情報科学教授)  
「沖縄の異文化コンフリクト再考—長期滞在者の視点—」

#### 第2室 (至誠館24番教室)

司会：玉井史絵 (同志社大学言語文化教育研究センター准教授)

- 1 任群 (神戸大学総合人間科学研究科博士後期課程)  
「アーサー・ウェイリーの中国観」
- 2 中島剛 (同志社大学嘱託講師)  
「モンスターと人間の間で：Dracula と Degeneration の思想について」

司会：丸橋良雄 (京都大学大学院人間・環境学研究科教授)

- 3 森村麻紀 (早稲田大学COE特別研究生(映像研究コース))  
「初期映画における女性身体と身体鍛錬」
- 4 北村賢介 (九州大学大学院芸術工学研究院准教授)  
「There is No Natural Religion—ウィリアム・ブレイクの啓蒙思想批判」
- 5 山崎有介 (長崎ウエスレヤン大学現代社会学部国際交流学科教授)  
「ベアトリーチェとメアリー：ダンテの〈天国〉とブレイクの〈地獄〉」

### III 講演

(16:20~17:20 至誠館23番教室)

司会：山内信幸 (同志社大学文化情報学部教授)

Prof. Tomas H. Röhlich (Smith College, 2007-8 Resident Director of the Associated Kyoto Program)

“Why do American College Students Study Abroad?”

支部長 山内 信幸

## 中国・四国支部

昨年11月に3支部大会(関西支部主催)に参加。その他としては、「日本語・日本文化部会」を中心とした比較文化81号の編纂を担当しました。

平成20年度の予定は以下のとおりです。

6月の全国大会に参加。

11月に日本語教育学会との共催で地区大会を開催予定。

また3支部会に参加。

および「日本語・日本文化部会」を中心とした比較文化研究の発行を目指す。

支部長 奥村 訓代

## 九州支部

### 第20回日本比較文化学会九州支部大会

日時：3月22日(土) 午後1時00分～5時50分

会場：長崎県立大学(佐世保市川下町123番地TEL:0956-47-2191)

受付：午後0時00分～1時00分(新館504教室前)

開始：午後1時20分～

総合司会：八尋春海(西南女学院大学)

会場校挨拶：岩清水由美子(長崎県立大学)

支部長挨拶：市川郢康(久留米大学)

<総会>

午後4時20分～午後4時40分(新館504教室)

会計報告及びその他：山口みほ(久留米大学<非>)

<講演>

午後4時40分～5時40分(新館501教室)

大橋康二(九州陶磁文化館館長) 「陶磁の世界—日本と欧州—」 司会：市川郢康(久留米大学)

<研究発表>

午後1時30分～4時10分(第1室 新館501教室)

①古賀崇雅(久留米高専<非>) 「『二程粹言』の成立をめぐって」

司会：吉田洋一(久留米大学)

②藤村一郎(久留米大学<非>) 「吉野作造の国際政治論」

司会：吉田洋一(久留米大学)

③與古光 宏(九州産業大学)

「アメリカ映画に見る、二人の新任教員像

—『いまを生きる』と『スクール・オブ・ロック』から—」

司会：安藤裕介(久留米大学)

④内田智子(長崎県立大学)

「大学英語教育におけるCALLシステムおよび学内ネットワーク利用の試み」

司会：北村賢介(九州大学)

⑤山崎祐一(長崎県立大学)

「異文化理解を重視したアメリカ合衆国における外国語教育

—日本における英語教育への応用の可能性—」

司会：小笠原真司(長崎大学)

午後1時30分～4時10分（第2室 新館502教室）

①ロバート・ノリス（福岡国際大学）

“A Comparison of American G.I. Resistance to the Vietnam War and the Iraq War”

司会：南川啓一（福岡女学院大学）

②駄田井直子（西南学院大学大学院）

「現代中国におけるキリスト教復興の特徴について—他宗教との比較を通じて—」

司会：山口みほ（久留米大学<非>）

③佐田亜紀（久留米大学<非>） 「漢詩に見る道真」

司会：崎村弘文（久留米大学）

④有田由紀子（福岡女学院大学） 「日本人大学生の敬語使用に関する事例研究」

司会：崎村弘文（久留米大学）

⑤樋口真己（西南女学院大学） 「北九州市における『新しいまちづくり協議会』の課題」

司会：八尋春海（西南女学院大学）

支部長 市川郢康

## 《お知らせ》

### 『比較文化研究』（関東支部編集号）投稿先の変更について

関東支部編集号の投稿先が変更になりますので、ご確認ください。

投稿先住所：郵便番号 370-0068 群馬県高崎市昭和町53

新島学園短期大学 小林俊哉研究室（電話番号 027-326-1155<代>）

編集責任者：小林俊哉（新島学園短期大学キャリアデザイン学科）

### 韓国日本文化学会からのお知らせ

韓国日本文化学会より今年度の日程が下記のように連絡がありました。発表希望の会員は同学会までご連絡ください。

5月30日（月）第6回韓国日本学連合会発表要旨締め切り

7月11日（金）12日（土）第6回韓国日本学連合会（第31回国際学術大会）

釜山外国語大学

9月13日（土）第32回学術大会発表申請締め切り

9月30日（火）第32回学術大会発表要旨締め切り

10月25日（土）第32回学術大会

発表希望者は発表分科会の理事宛申請方法：① 発表題目 ② お名前 ③ 所属 ④ 連絡 (E-mail、電話番号、携帯番号)を記入して申請。

日本語学：辛 碩 基 (建陽大) dct@konyang.ac.kr

日本語教育：禹 燦 三 (韓南大) wcsam@hanmail.net

古典文学：李 珍 鎬 (圓光大) jhleeh@wonkwang.ac.kr

近代文学：李 貞 熙 (威徳大) leejh@mail.uiduk.ac.kr

日 本 学：林 永 彦 (全南大) yimye@hanmail.net

なお、海外会員として入会（3000円）が必要です。

## 《会長室より》

聖書の言葉に「若いうちは自由に行動していても歳を取ると腰に紐を結わえられ、行きたくない所に引き連れて行かれる」という意味の記述があります。会長だけは私に務まる仕事ではないと認識していた私が、聖書の言葉のままに会長の重責を引き受けてそろそろ三年。今はバトンタッチの日を待ち望みながら最後のスパートをかけている駅伝の選手の気分とでも申しませうか。

それも皮肉な言い方で、どんな理由であれ現実には2005年に私が自ら進んで会長に立候補し、それゆえに嵐を引き起こしながら会長に就任したのです。以来会則の改定とそれに伴う役員の変更、研究倫理基準の制定、ホームページの立ち上げと、日本比較文化学会の今日化に取り組んで参りました。その分ずいぶん忙しい三年間を理事・事務局を中心とした大勢の方々に味わってもらいながらの三年となりました。そう、私が忙しかったのではなく、私を支えて下さった先生方に限りなく忙しい思いをしてもらったの三年でした。申し訳なく思いつつ心から感謝しております。

それでも足りなかったかのように今一つ難しい問題に直面させられております。学会員一人一人を大切にしたいとの思いと、組織としての学会を守らなければならないとの思いの間で揺れ動く日々となっております。この問題を何とかクリアして次の会長にバトンタッチが出来るよう全力を尽くす所存です。この先は安定した、そしてすべての会員にとってこの学会に所属していることが大きなプラスとなりうる学会であり続けて欲しいと願っています。そのためにはこれまで同様、この学会は会員全員が論文投稿や研究発表の場として積極的に活用していただかなければなりません。この伝統だけは会員の皆様で守り続けていただきたいと祈念しております。

芳賀前会長とその周りの研究者の皆さんと共にこの学会の種を蒔いてから約三十年。1979年、東北比較文化学会として発足した時の初代会長、山浦拓造先生（弘前学院大学）、1981年に日本比較文化学会と名称変更した後、1986年から椎野正之先生（大正大学）第二代会長、1991年からの第三代会長芳賀馨先生（福島県立医科大学から東北学院大学）、そして2005年からの第四代会長の太田を含めて会長は1979年の発足当初からのメンバーでした。

いよいよ今年の六月総会で日本比較文化学会としては第二世代となる会長が選出されることとなります。その歩みに大いに期待し、慎重にバトンタッチをしてまいりたいと存じます。

日本比較文化学会第四代会長 太田敬雄

## 《編集後記》

今号では、各支部の活動報告が紙面の多くを占めました。学会全体の活力が充実していることの表れかと思えます。次号は8月頃の発行予定となります。年度末のお忙しい時期、執筆を引き受けてくださった方々に心より感謝申し上げます。（高山記）